

神奈川県の学童保育

新型コロナウイルスの感染拡大“第5波”を受けて —学童保育にかかわる状況と課題—



「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、2020年3月から、地域によっては4か月以上もの間学校が一斉休業となり、学童保育は「社会の機能を維持するために必要な事業」として、原則開所が求められました。4月には初めての緊急事態宣言が出され、学童保育は朝から開所し、感染防止対策に取り組みながら、子どもたちに少しでも日常の生活の場を確保するよう、努力してきました。

その後も緊急事態宣言は出されましたが（2021年1月）、学校が一斉休業になることはなく、制限はありながらも、子どもたちは少しずつ日常の生活を取り戻してきていました。

しかし、今年の8月以降、感染者が爆発的に増え、神奈川県でも3度目の緊急事態宣言が発出されました。

指導員へのワクチン接種は進められていますが、自治体ごとに状況が違います。そのような中、夏休み中に10歳未満の感染割合の上昇とともに、保育所や学童保育での感染が報告されるようになってきました。

子どもの感染の拡大

県内でも学童保育での子どもの感染が増加しています。7月以降、横須賀市、藤沢市、相模原市の学童保育でクラスター発生の報道がありました。

学童保育での感染の報告が増える中、保健所の対応もひっ迫しており、行政との連携もなかなか円滑にいかない状況にあります。いざ感染者が出た場合の対応が学童保育任せとされている様子も聞こえています。

全国的には、感染防止対策として、おやつを提供を中止する学童保育も出ていますが、県内でも横浜市で、夏季休業期間終了後の対応として「おやつ提供の原則中止」の通知（8/23）が出されました。（ただし、利用児童の状況に応じ、クラブが対応可能な場合は、提供を行うことも可）

喫食時における感染リスクの回避は、これまで、グループ分けをして長机にごく少人数とするなど可能な限り取り組んできました。あそびにおいても、外遊びを中心に、密にならないよう心砕していますが、天候によっては難しいこともあり、どう生活を作っていくか厳しい状況にあります。

新型コロナワクチンの優先接種

自治体によっては、6月頃より、介護、障がい、保育など、福祉施設などで働くエッセンシャルワーカーを対象として、キャンセル発生時の優先提供や、集団接種などが行われており、学童保育指導員もその対象となりワクチン接種が進められています。

相模原市、横須賀市、平塚市など、優先接種が進められている地域も多数ありますが、指導員のワクチン接種が自治体として確約されていない地域もあります。

県独自の取組として、ワクチン接種会場を開設し、学童保育指導員も対象として7月17日より優先接種を開始しました。（接種期間は9月13日までの予定）しかし、会場が新横浜1か所のため、県央や県西など遠方からは利用しにくいとの声も上がっています。

夏休み前に2回のワクチン接種を終了した指導員は多くなく、保育の需要が高まる夏休みを迎えました。配置に余裕がない学童保育では夏休み期間でのワクチン接種を進めることは困難だったのではないのでしょうか。子どもの感染が広がり、学校の短縮授業などで、学童保育で過ごす時間が増える中、早急にワクチン接種が受けられるような体制が望まれます。

学校との連携

小学校でも感染が広がり、夏休みの延長やその後の短縮授業、分散登校などが行われ、また、オンライン授業などの取組も進められています。

学童保育では、学校の方針に従い、朝からの開所や密をさけるための方策など、対応を求められています。学校の臨時休校等の情報は直前にならないと学童保育に来ないことも多く、指導員の配置や保護者への周知など、あまりにも急な対応に追われている状況にあります。

学校内施設を活用できることは、密をさける上で大変重要です。しかし、理解を得られない地域もあり、速やかな情報取得とともに、学校との連携を強めることは大きな課題となっています。

「2022年度（令和4年度）に向けた学童保育に関する要望」への取組

すでに2年が経とうとしている「新型コロナウイルス感染症」の蔓延により、学童保育が制度的にも実態としても不十分なことが浮き彫りになりました。運営費等補助金や省令基準にある面積基準等、また学校との連携などの不十分さ、そして公的責任のあいまいさなど、法的位置づけからくる学童保育の施策の脆弱さから、指導員不足や子どもの生活の制限などが大きな問題となっています。学童保育の質と安全性を確保するとともに、一層の拡充が実現されるよう、今年度も県に対し要望活動に取り組んでいます。

「2022年度（令和4年度）に向けた学童保育に関する要望」12項目は6月の総会で内容について確認をし、その後の検討で正文を作成し、県知事宛に提出しました。9月9日の県担当課との懇談会では、概要について説明をし、趣旨を伝えました。

今回の要望の特徴は第4項に新規で「施設・設備の確保について」の要求を追加したことです。小学校の35人学級の実現にあたり教室が不足し、「学校内余裕教室を使用して運営している学童保育が追い出されることのないようにして欲しい」という地域からの声に基づき追加されました。合わせて、台所設備や手洗い場などが不十分な「学校施設を使っている学童保育設備の改善」、「小学校の新設・建替え時には、学童保育の専用室を確保すること」も項目に加えました。

また、ワクチンについては新横浜の大規模会場で学童保育指導員を含む福祉施設職員の優先接種が実施されましたが、検査体制についてはあまり前進がありません。コロナ感染拡大を防止するため「新型コロナウイルス感染症に関して、職員が定期的に検査を受けられるよう体制を整えること」についても前回に続いて要望しています。

さらに、学校との連携が十分に取れていない実態について各地域から報告が出されており、これについても昨年に引き続き「学校施設の開放、情報共有等学童保育と学校が連携を図れるよう」要求しています。

この要望は、同じ内容を「県民要求を実現する連絡会」において、約百団体の共同要求としても8月20日に知事に提出しました。緊急事態宣言下であり、初めてのZoomでの要求提出でしたが、これについては書面にて回答が得られることになっています。

また、これらに先立ち、同じ要求書をもって県議会各会派に向けた要望活動も行ってきました。各会派への働きかけについては下表にまとめた通りです。

会派	日程	時間	懇談時間	会場
立憲民主（総支部）	7/6(火)	10：40～11：10	30分間	神奈川産業振興センター
自民党	7/14(水)	11：10～11：40	30分間	県庁新庁舎
立憲民主（県議会）	7/26(月)	10：30～11：00	30分間	県庁新庁舎（Zoom併用）
公明党	7/26(月)	16：00～16：45	45分間	県庁新庁舎
県政会	8/10(火)	13：00～13：30	30分間	県庁新庁舎
共産党	8/26(木)	19：00～20：00	60分間	連協事務所（Zoom併用）

県民フォーラム及びひとり会派はヒヤリング設定なく要望書と資料を送付。

課題は山積しており、引き続き要望活動の取り組みを強めることが大切です。また、指導員の待遇改善も急がねばなりません。

各自治体から制度を生かした申請が出るようにすることがポイントです。行政、議会に対し現状を訴え、周囲への理解を拡げていけるよう、各地域においても声を上げてゆきましょう。



オンライン併用によるヒヤリング

県次世代育成課との懇談を実施しました

9月9日(木)、オンラインにて、神奈川県で学童保育を所管する「福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課」との懇談を行いました。県からは課長はじめ3名にご参加いただき、短い時間ではありましたが、コロナ感染症第5波を受けての各地域の学童保育の状況等、現場の声・要望を伝える機会となりました。

初めに会長より、次年度に向けた学童保育に関する要望について説明をしました。その後参加地域より、夏休み以降の状況から、学校との連携、いっそう必要とされている感染防止対策、閉所に至った場合の利用料返還についてなど、状況報告や要望が出されました。意見交換の後、最後に、県課長より以下のお話がありました。

「施設内で子ども同士の感染が非常に広がっており、それを家庭に持ち帰り家庭内で感染するという例が広がっている。症状が出た場合には検査し、陽性の場合には医療機関を受診し、学校や施設には来ないでいただくことを目的として、県で補正予算を組み、小学校、保育所等に通っているお子さんに【抗原検査キット】を配ることになっている。職員向けキットの配布については、厚労省で配布の計画がある。

症状が出ていたら（施設に）来ないというのが大原則。特に指導員は症状がある場合は現場にこないことを、あらかじめ徹底していただきたい。」



私のおすすめ「日本の学童ほいく」

毎月の運営委員会での、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」コーナーで、地域持ち回りで、気になった記事、話題にした内容をご紹介します。

8月は相模原からのおすすめの予定でしたが、都合により持ち越しましたので、9月運営委員会での相模原市の安西さんからのおすすめです。

8月号協議会日より『教育・保育施設等における事故報告集計』が公表されました(P.74)

内閣府による「教育・保育施設等における事故報告集計」のことが取り上げられていましたが、学童保育における重篤な事故について、発生場所や時間帯、また考えられる要因についても書かれていて気になりました。自クラブでの職員ミーティングでの共有事項としました。

8月号協議会日よりには、事故発生の考えられる要因として「子ども集団の規模、職員体制、施設環境、出席人数、保育内容」などがあげられています。詳しくは8月号や内閣府のホームページをご参照ください。内閣府教育・保育施設等における事故報告集計令和2年度

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/r02-jiko_taisaku.pdf

2021年9月号～10月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2021年9月号> 特集「学童保育の生活づくりを考える」

- ★子どものひろば 汰緒さん〔横浜市5年生〕、ここ菜さん〔逗子市6年生〕
- ☆読者のひろば 「リフレッシュしました！」 中津川美智子さん〔横須賀市指導員〕
- ※地域連絡協議会のページ 「三浦半島学童保育研究集会のご案内」

<2021年10月号> 特集「学童保育の施策 ―現状と課題」

- ★ 特集「つながりと協力で支えられ、学童保育の充実・発展をめざして」
伊集喜代子さん〔三浦市指導員〕
- ☆ 子どものひろば あやねさん〔平塚市1年生〕、龍佑くん〔横須賀市1年生〕
- ※地域連絡協議会のページ 「秋の学習会のご案内」

活動報告(2021年8月～2021年9月の主な活動報告)

8月8日(日) 8月臨時全国運営委員会
 9月4日～5日 9月全国運営委員会
 9月8日(水) 45かな研第1回実行委員会
 9月9日(木) 県次世代育成課との懇談会

他 第1木曜日 定例運営委員会に付随し、定例役員会、定例事務局会議を実施
 なお、オンライン研修会第6回、第7回はコロナ第5波の影響で延期しました。

♪ 横須賀市連協だより ♪

横須賀市学童保育連絡協議会は、1986年に当時5つの学童クラブが結集して立ち上げ、今年で36年目を迎えます。当初は、保護者会運営の学童クラブが多く、加盟率も高かったのですが、運営主体の多様化に伴い、保護者会運営も減少しました。現在は、市内74クラブ中、保護者会運営はおよそ4割。連協加盟も25クラブにとどまっています。加盟25クラブの運営の内訳は、保護者会運営⑩、一般社団法人①、NPO法人⑦、個人運営②となっています。

横須賀も県内の市連協と同じく、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、様々な行事や会議が延期や中止になりました。昨年は、人数制限や感染対策を行ないながら、通常の運営委員会だけでなく、議員を招いての拡大運営委員会などを対面で行なっていましたが、今年度に入ってから、5月の定期総会をはじめ、ほとんどオンラインが主流となりました。対面できないのは残念ですが、「オンラインのおかげで参加しやすくなった」「負担が軽減された」という声もあり、今後の活動については再検討が必要だと感じます。

例年開催される「学童保育まつり」は、昨年に引き続き、今年も中止することになりました。実行委員会では、「なんとか子どもたちのために楽しい企画ができないか」「2年連続の中止では、これまでの経験があとの保護者に続いていかない。今から検討が必要では？」と言った、前向きな意見が多かったことが印象的でした。

また、市連協と横須賀指導員会は別組織ですが、非常に連携が強く、様々な連協の活動や行事においては、指導員会の全面的な協力のもとで実施しています。学童保育の様々な研究集会への参加や、保育誌の購読なども指導員が現状維持のために、保護者会をけん引してくれているおかげです。感染症のガイドラインの策定や改訂なども、指導員の協力のもと、担当課とも連携を図りながら対応ができており、感謝しています。

横須賀市学童保育連絡協議会事務局 永松

12月号の「地域連協だより」は平塚市連協の予定です。お楽しみに！



オンライン研修会日程変更のお知らせ

新型コロナウイルス感染症第5波の影響を受け、下記の日程に変更しました。詳しくは県連協HP (<https://kanaken.onushi.com/>) をご覧ください。

- 第6回「学童保育の生活とあそび」 →10月8日(金)
- 第7回「障がいのある子を含めた生活づくり」 →10月15日(金)

<これからの主な予定>

- 10月10日(日) 秋の学習会「子どもの最善の利益」を考える〔オンライン〕
- 10月23日～24日 第56回全国学童保育研究集会〔オンライン〕
- 1月16日(日) 新春会長会・「日本の学童はいく」普及推進会議〔オンライン〕
- 2月13日(日) 第45回神奈川県学童保育研究集会〔オンライン〕

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。